

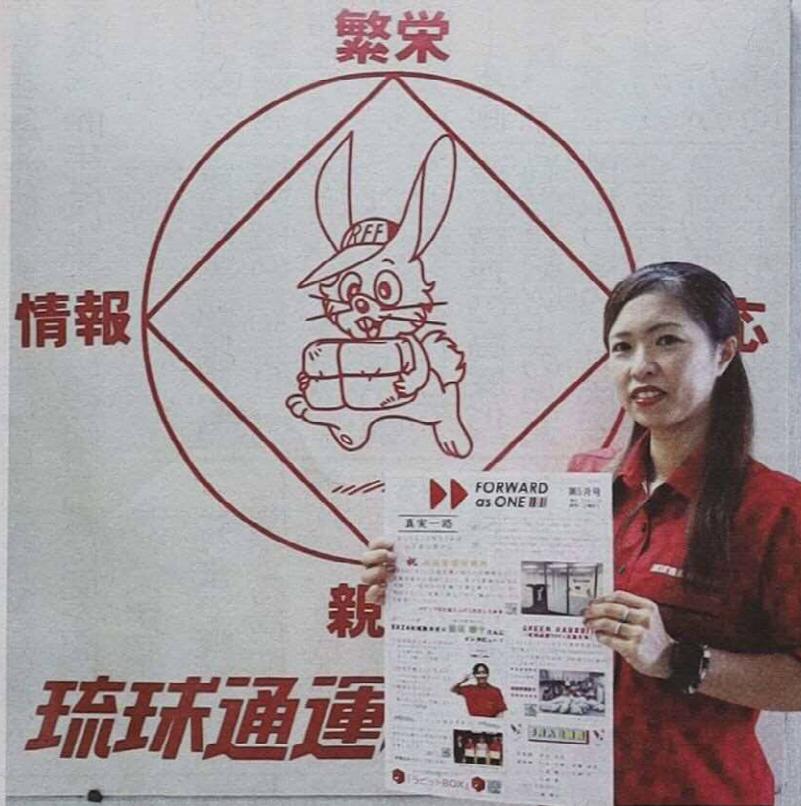
第820回

躍進する 女性陣

人と関わる広報の仕事

社内新聞を持つ金城さん

「自分に合っている」



琉球通運 金城勝江さん

「人が好きで、人の役に立ちたい。今の仕事は自分の性格に合っている」と話すのは、琉球通運（喜納秀智社長、沖縄県那覇市）総務部総務課に所属する金城勝江さん。

現在、金城さんは広報として、社内新聞の制作やメディア対応、総務の補助業務等に携わる。

同社の社内新聞は主に、社員インタビューを

はじめ社内イベントや取り組みについて取り上げており、その制作を担当するのが金城さんだ。

「社員とのアポ調整、特に執筆に関しては未経験なので苦労はある」と

金城さん。「色々な人が

いるのでその人に合わせた会話を心掛ける。心地

よい人間関係を地道に積み上げることで、皆広報

業務に協力してくれるようになった」と続ける。

金城さんは以前、浦添

市役所で嘱託職員として9年間働いていたとい

う。3児の母親でもある金城さんは、子育てをし

ながらの時短勤務で、その上嘱託のため、ステッ

プアップは望めなかった。そこで転職を決意。その後勤めた会社での総務の仕事に強い興味を持ったという。

「総務の部署の方が色々な人とコミュニケーションを取っているのを間近で見て、私もそんな仕事が見たいと初めて思った」と、同社で総務を担当するようになった経緯を振り返る。

「総務の仕事は、想像以上に多岐にわたる。今の広報業務も、社内外問わず多くの方と関わる仕事。それが楽しくて、自分に合っている」と金城さん。

今後については、「仕事のアイデアを実際に形にするためにも、早く独立立ちをするのが目標」と話している。

（越後桃子）